

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

平成18年1月1日に旧神川町と旧神泉村が合併して、本年で20周年を迎えました。神川町は、先人たちのたゆまぬ努力と、町民の皆様の温かいご支援により、自然豊かな住みよい町へと発展してまいりました。

特に日本の絹産業の発展を支えた、原善三郎翁や木村九蔵翁などの偉人は、神川町だけでなく近代日本の歴史を語る上で欠かせない人物として広く知られています。また、町には晩秋に可憐な花をつける「冬桜」や、国の名勝・天然記念物「三波石峡」、武藏二ノ宮「金鑽神社」などの景勝地もあります。そして、町の特産品である「梨」は、明治時代から培われてきた栽培技術により、甘くみずみずしい梨として多くの方々に親しまれています。こうした豊かな地域資源を活用し、町のさらなる発展に向けてさまざまな取り組みを進めております。

一方で他自治体と同様、「人口減少」や「超少子高齢化」などの全国的な課題にも直面しています。これらの課題を克服し、未来に向かって、町がより住みやすく、活気あふれ、子どもから高齢者まで全ての人が幸せを感じられるようさらなる努力をしてまいります。そのためには、町民の皆様のご理解と、協力が必要不可欠なものと考えておりますので、これからも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

結びに、本年の干支は「午年」です。馬は後ろを振り返らず前へと進む

その姿から、前進の象徴とされ、今年は「発展」と「成長」の年と言われています。本年が皆様にとって素晴らしい発展の年となりますことを心から、祈念申し上げまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

神川町長 櫻澤 晃



神川町が目指す「これからのお5つの施策」

1

安心できる子育てと生涯の学習を生かすまちづくり

(子育て・教育・文化・スポーツ)

子どもたちは町の未来を担う大切な存在です。子育て支援の高いニーズに応え、地域の様々な活動主体と連携し、切れ目のない支援を目指します。また、生涯を通じた学びの場を広げ、自分の力を發揮できる社会を育てます。健康づくりやスポーツ活動も大切にし、すべての世代が活力に満ちて暮らせるまちをつくります。

安全で快適に暮らせるまちづくり

(生活環境)

神川町の魅力は、美しい自然とそこに共生する文化や風土です。この自然を守り育てながら防災対策や道路整備、公共交通の充実を図り、暮らしやすく快適なまちを築きます。地域の自然や文化を生かした環境共生型のライフスタイルを広め、次の世代へ豊かな環境をつないでいきます。また、地震や洪水等自然災害への備えを強め、減災体制の強化にも努めます。

健康で安心に満ちたまちづくり

(保健・医療・福祉・介護)

3

健康で安心に満ちたまちづくり

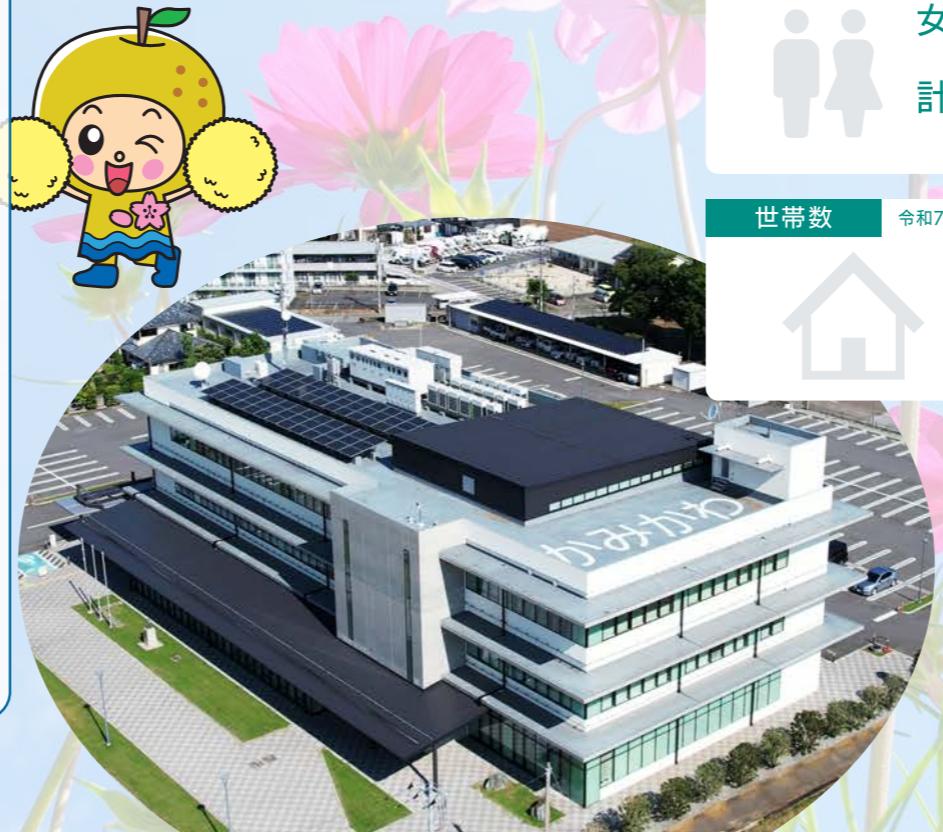
(保健・医療・福祉・介護)

4

活力に満ち元気に働くまちづくり

まちづくりの主役は町民一人ひとりです。「自らの地域は自らつくる」という気持ちを大切にしながら、町民と行政が手を取り合い、知恵と力を出し合って地域の活力を高めていきます。農業では食や命を支える産業としてその重要性を再認識し、持続可能な形で支援を続けます。工業・商業では企業や商店と連携し、地域の雇用と活力を生み出します。また、中山間地域の自然や文化を生かし、新しい観光の形も創造していきます。

(地域産業)



5

町民と行政が協働し希望に満ちたまちづくり

(町民と行政)

まちづくりの主役は町民一人ひとりです。「自らの地域は自らつくる」という気持ちを大切にしながら、町民と行政が手を取り合い、知恵と力を出し合って地域の活力を高めていきます。農業では食や命を支える産業としてその重要性を再認識し、持続可能な形で支援を続けます。工業・商業では企業や商店と連携し、地域の雇用と活力を生み出します。また、中山間地域の自然や文化を生かし、新しい観光の形も創造していきます。

データで見る神川町

人口

令和7年4月1日現在、神川町世帯人口調査より

男 6,503人
女 6,197人
計 12,700人

世帯数

令和7年4月1日現在、神川町世帯人口調査より

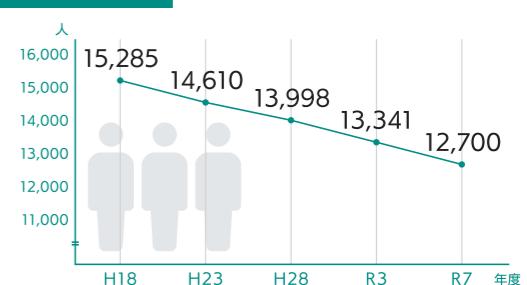
5,970世帯

土地利用状況

令和5年1月1日現在
田 6% 畑 16% 宅地 19% 山林 25% その他 34%

人口の推移

各年4月1日現在、神川町世帯人口調査より



町の特産品

令和5年市町村別農業産出額(推計)より

日本なし

農業産出額 1.7億円
県内4位

田

畠

宅地

山林

その他